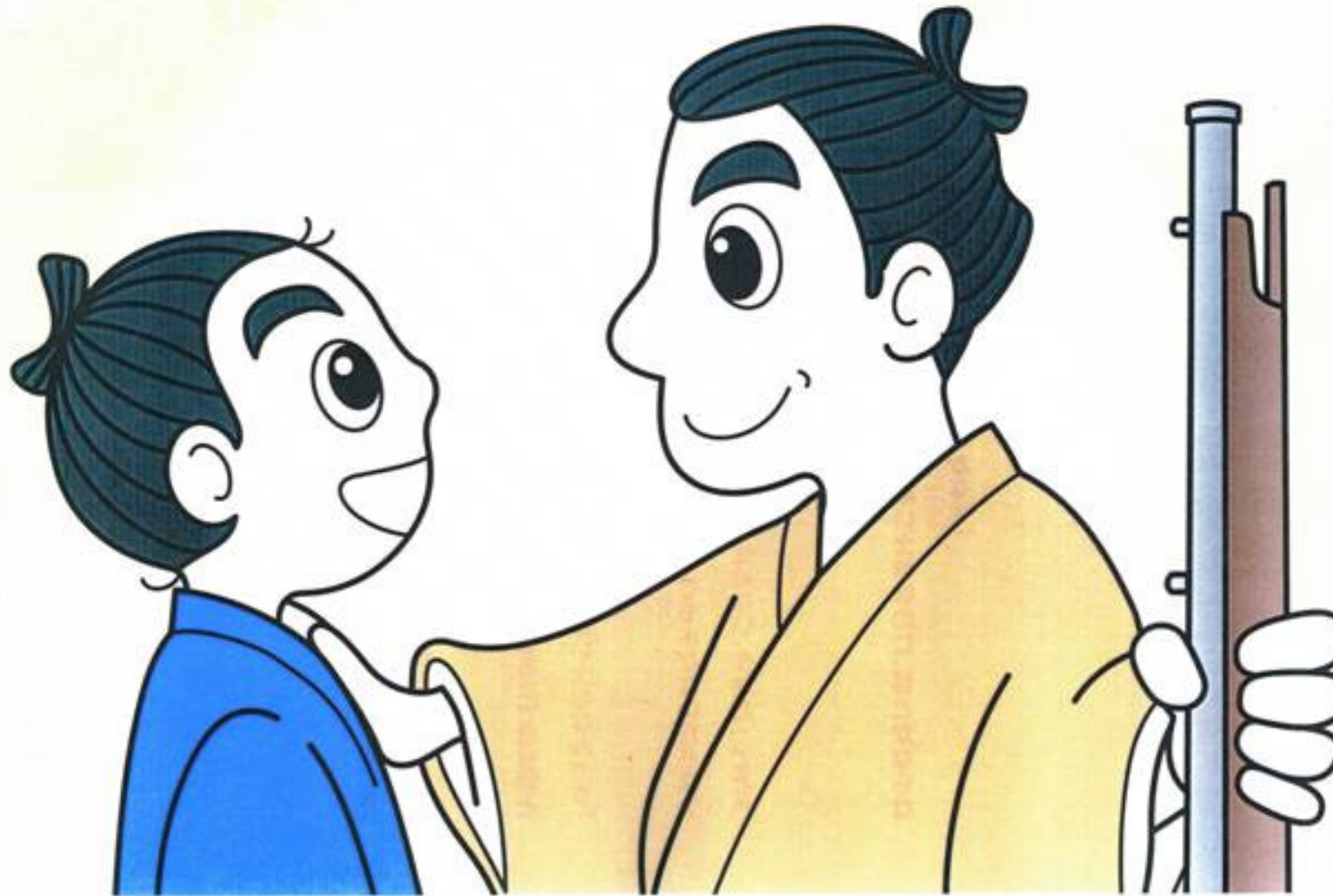


奥寺八左エ門物語



【ナレーション】

むかしむかし、今から340年以上も前のお話です。

青森県津軽地方の代々鉄砲作りをしてきた家に奥寺八左エ門定恒(さだつね)という男の子が生まれました。

八左エ門は、小さいころから父親に鉄砲の作り方や使い方を教わりました。

【八左エ門の父】

「八左エ門、お前もご先祖様に恥ずかしくないよう精進なさい」

【八左エ門】

「はい、父上がんばります」

【ナレーション】

八左エ門も鉄砲の秘術を継ぎ砲術に長けて成長しました。

奥寺八左工門物語



【ナレーション】
八左工門が大人になったある日、南部藩の重信(のぶしげ)侯に招かれ砲術を教えにこの地にやってきました。

【村人A】
「この辺りは三日月の丸くなるまで南部領といわれるほどひろいひろい土地なんです」

【村人B】
「でもどんなに広くても水がないからススキばかりで人も住めない、作物だってとれないのさ」

【八左工門】
「こんなに広い土地なのに、何とかならないものかなあ」

奥寺八左工門物語



【ナレーション】

八左工門が重信侯に砲術を教えていたある日のこと

【八左工門】

「この辺りは広大な土地だというのに水の便が悪くて村人達が困っていると聞きました」

【重信侯】

「そうなんだ、米の取れ高が少しも上がらないし、干ばつになれば食べるものが取れなくなってしまう」

【八左工門】

「それでは広大な土地に水を引き、米作りの盛んな土地にしようではないですか」

【重信侯】

「そんなことができるのか。」

それにそんなにいくらかかるかわからない大金はとても準備できないだろうし……」

【八左工門】

「このままでは村人達がかわいそうです。」

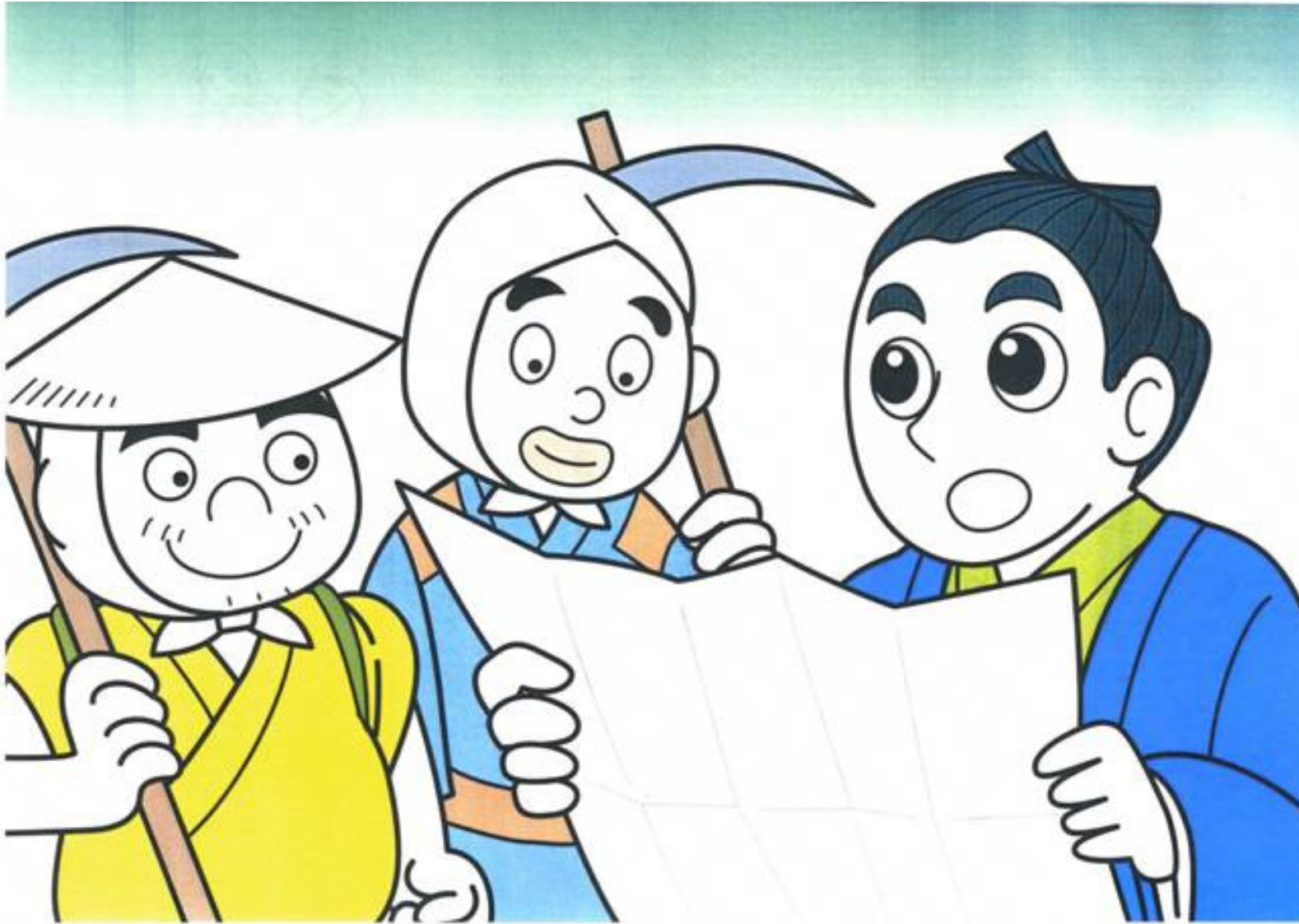
誰かが立ちあがらなければなりません。

私にいい考えがあります」

【ナレーション】

八左工門は以前から砲術を教え親しくしていた北海道の松前侯に相談しました。

奥寺八左工門物語



【八左工門】
「私は南部藩の広大な土地に水を引き、豊かな土地を作りたいと思っております。」

それには大金がかかるのです、どうかお力をお貸し下さい」

【松前侯】
「どうか…南部藩は気候が悪く米がとれなくて困ったとき、米をわけてもらっている。」

それに八左工門の熱意に免じて三千両を準備してやろう」

【八左工門】
「ありがとうございます！
きっとやいとげてみせます」

【ナレーション】
殿様の許しをもらった八左工門は、さっそく工事に取りかかりました。

【八左工門】
「ここは奥羽山脈からの沢水ではぜんぜん足りないし、北上川では低すぎてここまで上げることはできない。」

そこで和賀川から引くことにします」

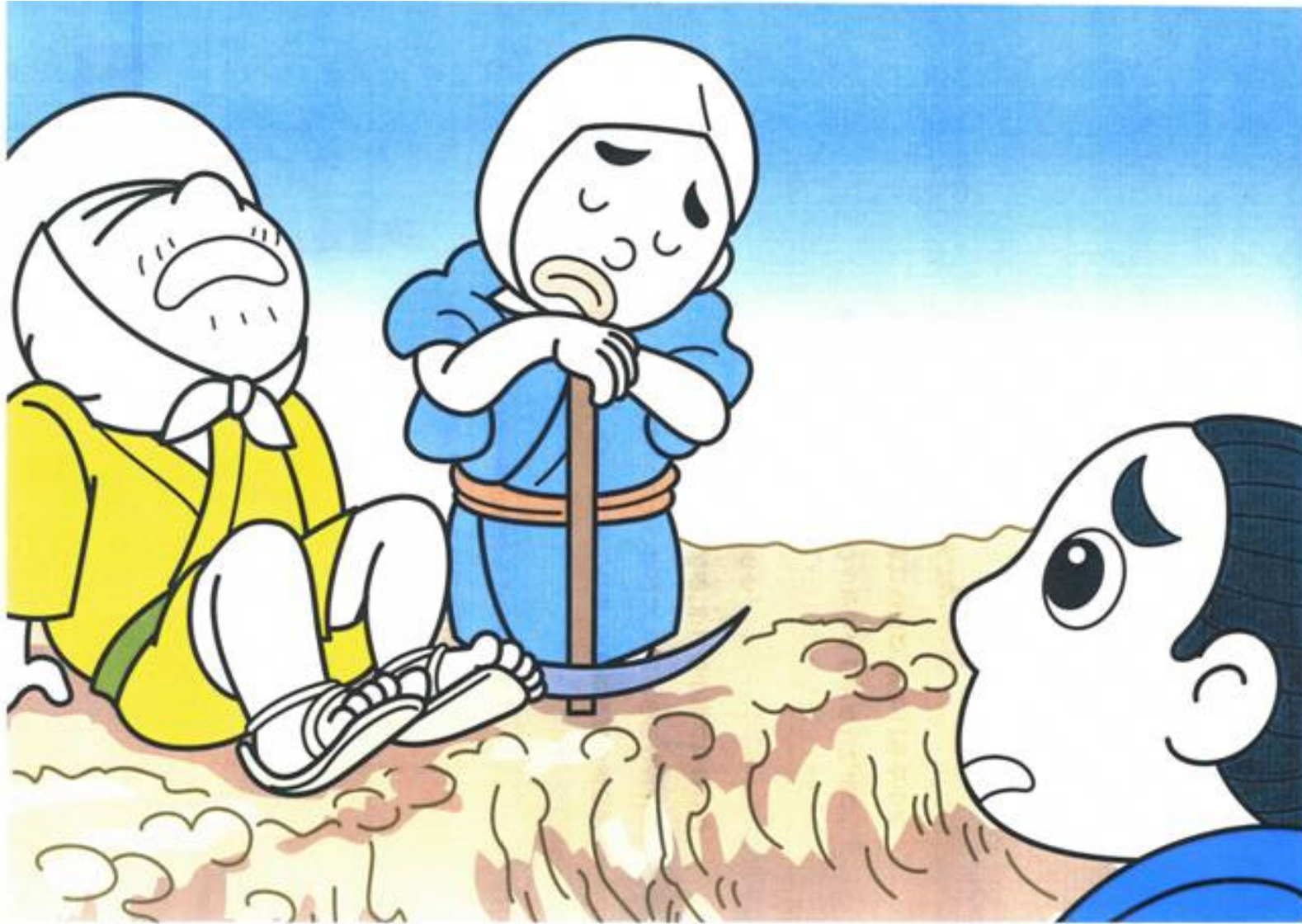
【村人C】
「そいゃあいいが、大丈夫だべかなあ」

【村人D】
「どこから掘るんだべ」

【八左工門】
「横川目の瀬畑(せばた)橋の上流から掘ってみようと思います」

【ナレーション】
八左工門も村人達もはいきっていました。

奥寺八左工門物語



【ナレーション】
横川目から後藤野まで掘りました。

【村人A】
「水、流れてえこねえじゃ！」

【八左工門】
「では、少し上流から掘ってみましょう」

【ナレーション】
村人達は上流の御前淵(ごぜんぶち)から掘ってみました。

【村人B】
「やっぱり水っこ一滴流れねえ」

【八左工門】
「今度はごみ瀬から掘ってみましょう」

【村人C】
「ここもだめだ」

【村人D】
「ほんとに水なんて引けるのか」

【村人A】
「やっぱり無理じゃねえってが、おら最初からできっこねえとおもってらった」

【ナレーション】
村人の落ち込んだ様子を見た八左工門は困っていました。

奥寺八左工門物語



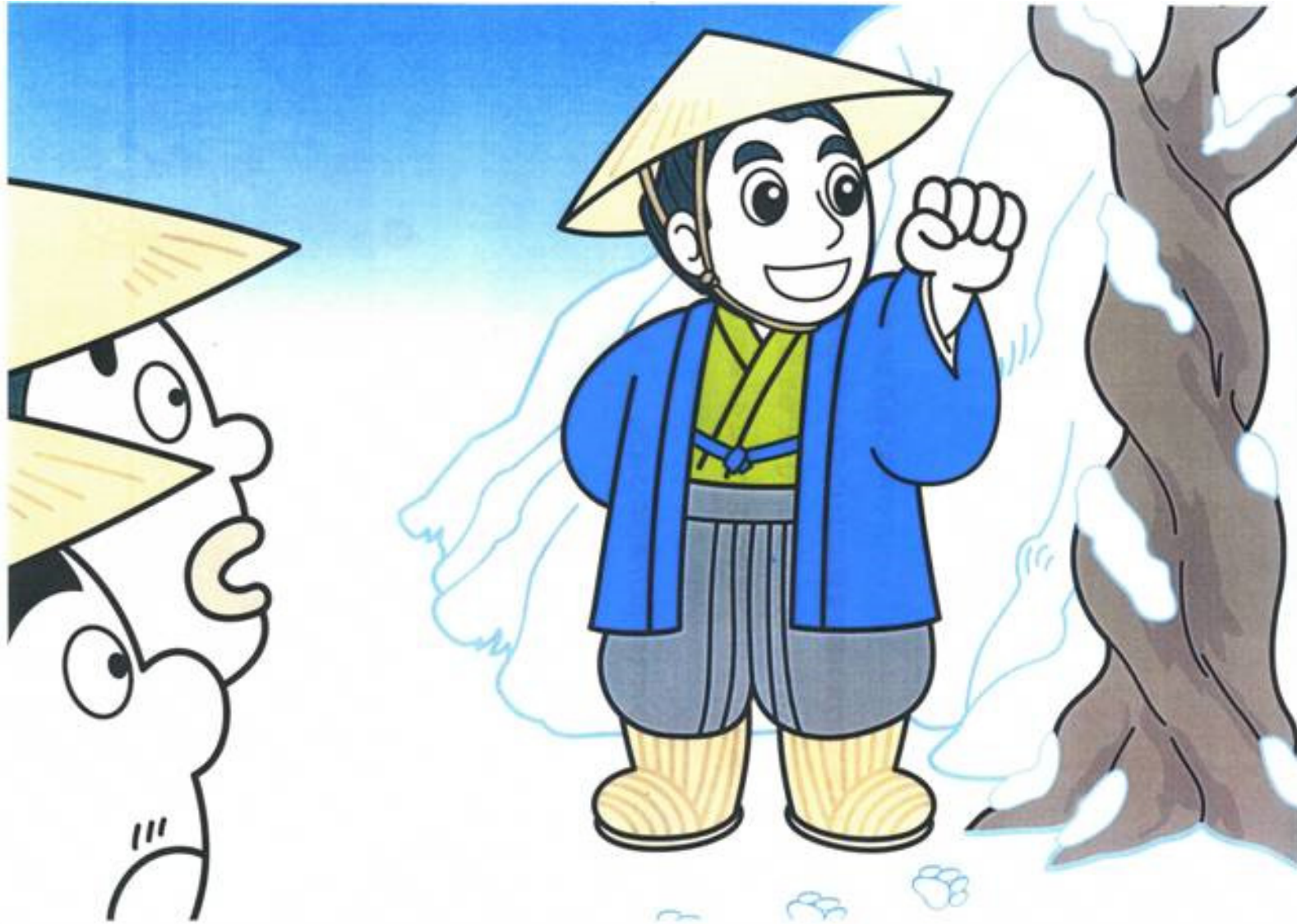
【ナレーション】
ある夜、八左工門は夢を見ました。八左工門の前に真っ白な
キツネが現れ、

【白キツネ】
「八左工門、明日の朝、目がさめたら私の足あとをたどいなさい。」

その先の川のほとりに連理(れんり)の木がある。
そこから掘ればきっと水が流れるだろう」

【ナレーション】
翌朝、八左工門は外に出るとキツネの足あとがあり、たどっ
ていくと夢のお告げどおり、木が二本からみあった連理の木が
ありました。

奥寺八左工門物語



【八左工門】

「**ここだ。**

**白キツネのお告げのあったここを掘ってみよう。
ぜったい氷が流れる」**

【村人B】

「**こったな岩を掘るのがあ**」

【村人C】

「**おいじゃねえのが**」

【村人D】

「**やめねえが**」

【八左工門】

「**みなさん、お願いします。**

私を信じて掘ってください」

【村人A】

「**八左工門さんのこと信じてみねえが**」

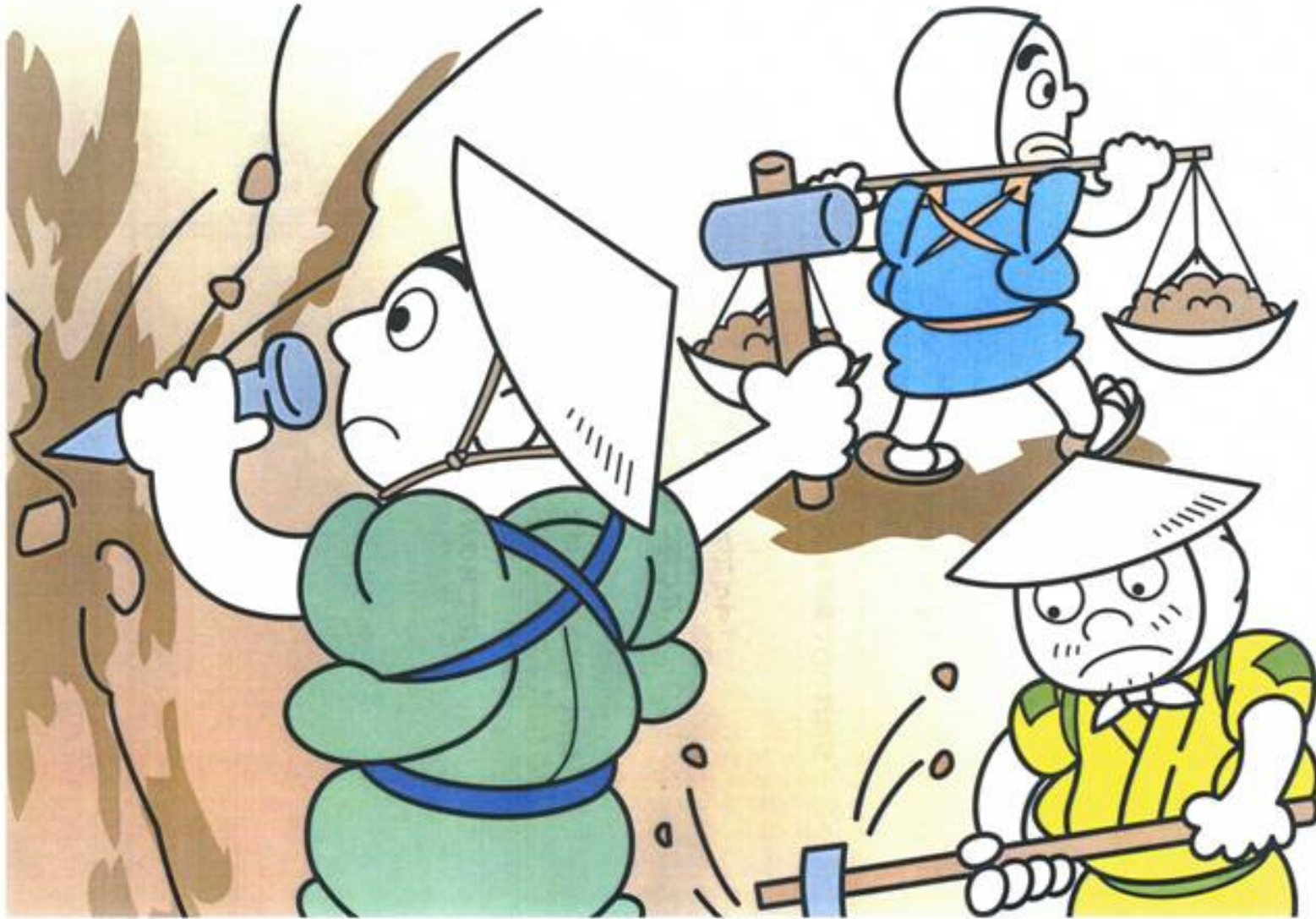
【村人B】

「**そうだな**」

【村人C】

「**やってみるが**」

奥寺八左工門物語



【ナレーション】
八左工門は、秋田県の阿仁(あに)鉱山のトンネル工事の技師や人夫をやとい工事にかかりました。

【技師】
「穴掘りなら俺たちにまかせろ」

【ナレーション】
つるはしやげんのうなどの道具を使っての手堀り作業で、毎日少しずつくりぬいていきました。

【ナレーション】
人夫(にんぷ)の足りないところは、藩から囚人まで借り受け工事を進めていきました。

奥寺八左工門物語



【ナレーション】
工事を始めてから9年たちました。

【村人A】
「やったあ、八左工門さん完成したな」

【八左工門】
「どうどうやりました。
みなさんのおかげです」

【村人C】
「八左工門さん、水を流してください」

【村人B】
「おっい、水が来たぞォ」

奥寺八左工門物語



【ナレーション】

村々の人たちが長い間待ち望んでいた和賀川の水が村崎野まで流れていきました。

穴堰を含む20,400mもの長大な上堰用水路が完成し、引き続きその下流から、穴堰を含む15,109mもの下堰も作られました。

こうして八左工門は15年という長い年月をかけ上堰、下堰の二つの用水路を作ることに成功しました。

奥寺八左工門物語



【村人A】
「奥寺八左工門という人が、すごい堰作った話っこきいたがぁ」

【村人B】
「ああきいだ、水にこまらねえがら米っこいっぺえとれるようになったそうだ」

【村人C】
「おらだちもそごさいかねえが」

【村人A】
「いくべ、いくべ」

【ナレーション】
それまでは木さえも育たなかった荒れ野に豊かな水が流れ込み、多くの田を切り開くことができるようになると、ほうぼうから人々が集まり住み着くようになりました。

おしまい